

インドで深刻化する飲料水不足 所得水準向上で、「良質な水」に対するニーズの高まりも

シャイニング・インド（マクロ関連）～日本人の感覚ではわからない、インドの水事情～

▶ インドの水資源の現状

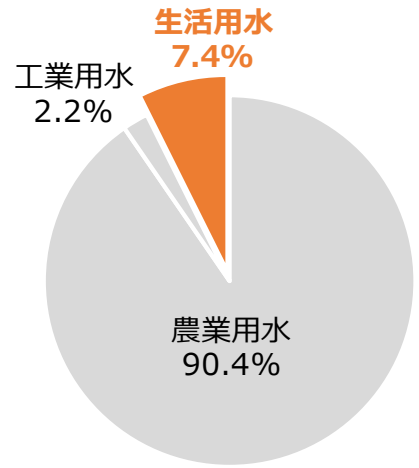
インドはヒマラヤ山脈の氷河等、豊富な水源を抱え、水そのものの確保には困らないと思われがちですが、工業用水需要も増加する中、気候変動による降雨量減少によって農業用水確保に悩まされる年もあり、水資源へのインド政府の関心は極めて高い状況にあります。

インド政府は、2019年5月に水専門の政府機関ジャル・シャクティ（Jal Shakti）省を設立しました。「2024年までにすべての農村に水道普及」という目標の実現性はともかく、政府の重要背景策として、水資源開発・規制を含めた積極的な取組を進めています。

インド政府はこれまで水道インフラの普及を進めてきましたが、化学物質などによる汚染の懸念もあり、清潔な水道水の供給は中長期的な課題です。

2023年3月、国連水会議においてジャル・シャクティ省大臣は、インド国内の水部門において2,400億米ドル以上を投資する計画を発表しました。水の安全保障を確保し、すべての国民にきれいな水と衛性というSDG（持続可能な開発目標）を達成するためにインドで行われているプログラムや努力を強調しました。

インドの水資源の用途分布（2020年）

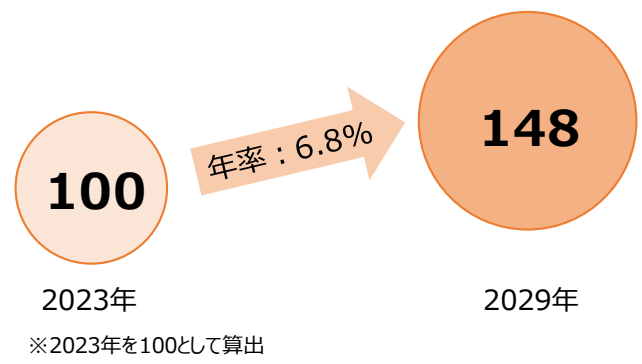


▶ 良質な水はお金を出して買う

世界銀行のデータによれば、インド国民の9割以上は上水道にアクセス出来る状況にあります。一方で、断水・漏水や水質に関する問題も多く抱えていることも事実です。インドで急拡大する中間所得層の間では、「良質な水はお金を出して買うもの」との認識が広がっており、ウォーター・サーバーや浄水器を設置する家庭も増えています。

事実、タタ・グループやユニリーバ系などインドの多くの浄水器関連企業等が、浄水器の販売を伸ばしており、ウォーター・サーバー事業の売り上げを増やしている企業も出てきています。

インドのウォーター・サーバーの市場規模予測



▶ インド経済の成長エンジンの多様性は長期的な株価上昇の潜在力の高さを示す

先進国では成熟した事業と見られる水関連のような事業においてさえ成長の芽が潜むインドは、投資機会の宝庫であることがわかります。また、成長の源が多様で分散していることから、これからもインドは持続的な経済成長が見込まれ、関連する企業の長期的な企業価値向上も期待できます。

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会